

Yan tai

# 煙台にて

中国、山東省



江本弘次郎

2004年5月28日

## 1. はじめに

2000年12月にM社を退社したあと、雇用保険の世話になり、自由に気ままな生活を楽しむ一方、なにか面白い仕事はないかと、人材銀行やインターネットの求人情報を見ていた。

しかし、60歳近い造船屋に魅力ある再就職の場は少なく、庭を訪れるメジロなど野鳥の観察をする日々が続いた。ミャンマー、フィリピンと海外の生活が続いたので、出来れば自転車で通勤できる近場での仕事を希望した。しかし、現実には厳しいものだった。

4月の初め、庭いじりをしていると、M社の関連会社(A社)から声がかかった。ヒューストンで6ヶ月間、その後、シンガポールで約1年、船の改造をするプロジェクトだと言う。今まで東南アジアでの仕事が多かった私には、アメリカは新鮮で興味があった。

打ち合わせのため、早速ヒューストンへ飛んだ。ミーティングは何とかなったが、レストランではテキサスなまりの英語がわからず、ビーフステーキやバーガーなどの注文は、身振り手振りだった。滞在中にヒューストンオープンが開催され、駐在していたゴルキチと観戦ツアーに参加した。翌日、彼に誘われ、ハイウエーを1時間走ったゴルフコースでラウンドした。膝が隠れるヒースとワニが潜む沼にはばまれ、散々な成績に終わった。

さあこれからは、本場でゴルフが出来ると、仕事よりゴルフに夢を膨らませていた6月の中頃、A社から、ヒューストン行きはなくなった、その代わりに中国のプロジェクトをやってほしいと連絡が入った。

昔(1980年)、上海宝山製鉄所プロジェクトで、北京と上海へ行ったことがある。当時の中国は紅衛兵や江青4人組が暗躍した時代である。政治、経済は不安定、交渉は組織化された中国人相手で、商談はなかなか進展しない。町の景観と中国人の服装は灰色一色、ホテルのバーに行っても女性はおらず、色気はまったくなしといった状況であった。

そんな訳で中国行きはあまり乗り気でなかったが、A社に勤務していた先輩から「中国は変わった。近くにゴルフ場もある。」と聞き、引き受ける由、回答した。

## 2 . プロジェクトの概要

タイ国営石油会社から受注したDWT 60,000 トンのF S O (Floating Storage & Offloading Vessel : 海上石油貯蔵設備) を中国の煙台造船所で建造する。建造期間は12ヶ月。

船の長さ×幅×深さ：210m×32.2m×18.8m



建造中の F . S . O

## 3 . <sup>ヤンタイ</sup>煙台造船所

山東半島の中央、北側の煙台市（緯度は仙台とほぼ同じ）にあるシンガポール資本の造船所である。社長をはじめ、各部門の長は副社長の肩書きを持つシンガポール人（20人ぐらい）で構成され、設計や製造現場は中国人である。

社長のシンガポール流ワンマン経営振りが随所に見られる。

本プロジェクトのため、造船所は日本で研修を受けた中国人技師をプロマネに指名した。40歳代のおっとりした好人物である。

## 4 . プロジェクトメンバー

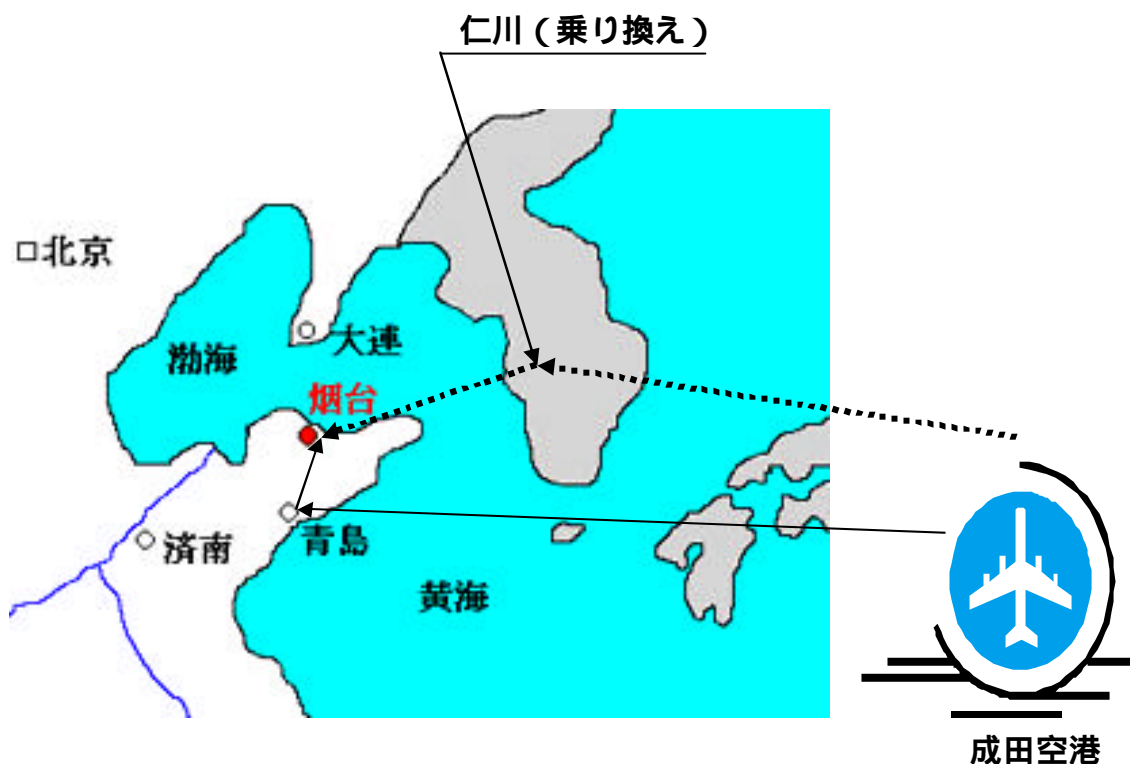
A社のプロマネと設計担当は主に東京にて勤務、煙台事務所は本プロジェクトのため雇われた日本人5名、中国人15名、オーストラリア人1名。

船主側はタイ、イギリスおよびフランスの石油会社から派遣されたタイ人、イギリス人、フランス人で構成され、実に国際色豊かなメンバーである。

ビジネスは英語で行われ、イギリス、オーストラリア人が最も流暢（当たり前）、次がシンガポール、続いてフランス、日本、タイ、中国といった順である。主要メンバーが集まる Weekly Meeting では、作業の安全、品質、工程など様々なトピックが報告され、議論される。問題がなければ2時間、長いときは3時間を超える会議となる。

話がこじれたときは、交渉役として雇い入れたオーストラリア人（機関銃のように言葉が次々と飛び出す話好き）と船主側イギリス人（紳士風）の舞台となる。二人のやりとりを理解できず、日本人、中国人、タイ人は結論が出るのをおとなしく待つのみである。

## 5 . 煙台へのアクセス



空路、上海か北京経由で行くルートが一般的である。韓国の仁川（インチョン）経由は最短だが、乗り継ぎ時間が少ない。成田 - 仁川の便が遅れたり、仁川乗り換え時、うろうろしていたら間に合わない。しかし、成田発午前10時の便に乗れば、煙台空港に午後2時頃着くのは魅力である。成田 - 青島の直行便もある。週2便と少ないが、飛行機の乗り換えはない。しかし、青島から煙台まで約3時間、道は良いが、かなりしんどいドライブである。

私は仁川経由を3回、青島経由を1回、飛行した。初回の仁川空港では乗り換えのためターミナルを走り、何とか搭乗券を手にしたが、思いも寄らぬトラブルに巻き込まれた。

搭乗ゲート付近で待っていると“ Mr. Emoto, Mr. Emoto...”の呼び出しである。何事かと緊張の面持ちで搭乗ゲートに行くと、オーバーブッキングのため、あなたは今日のフライトに乗れない、明日の便になるという。中国人1人、韓国人1人も乗れない模様だ。 “ **Oh, No Kidding!** ”  
ここは押しの一手、決して受け入れてはいけない。  
航空会社の係員に詰め寄った。

「私は何日も前に東京で予約し、“ OK ” の航空券を購入した。」  
「すでに搭乗手続きを済ませ、搭乗券も持っている。」  
「今日、煙台で中国政府の高官と重要な打ち合わせがある。」(これはうそ)  
「もし、今日の便がだめだというのなら、Manager を呼んでくれ。」

これで決着、搭乗ゲートをくぐり、1時間後、予定通り煙台に到着した。  
中国人か韓国人か知らないが、私に替わってもう一人乗れなくなったに違いない。

しかし、一難去ってまた一難である。託便した手荷物(スーツケースとゴルフバッグ)がターンテーブルから出てこない。仁川で積み忘れたようだ。仁川での乗り換え時間が短いため、乗客は走ればよいが、託便手荷物の積み替えが間に合わないケースがあるようだ。空港職員に話し、所定の手続きをする。「積み忘れであれば明日の便で来る、来たら連絡するから取りに来い」という。翌日、バッグは到着した。  
2回目は、成田空港でチェックインするとき、託便手荷物に“ **Priority Service Tag** ” を付けて貰うようにした。それ以降、トラブルはない。

( 航空会社は満席で飛ばしたいため、キャンセル客を見越して、座席数より多めの予約を引き受ける。もし、キャンセルが少なければ当然オーバーブッキングとなり、乗れない客がでる。この場合、航空会社は乗客の中から次の便に変更可能な客を捜すことになる。航空会社は変更してくれた客に協力金を支払うとのことである。)

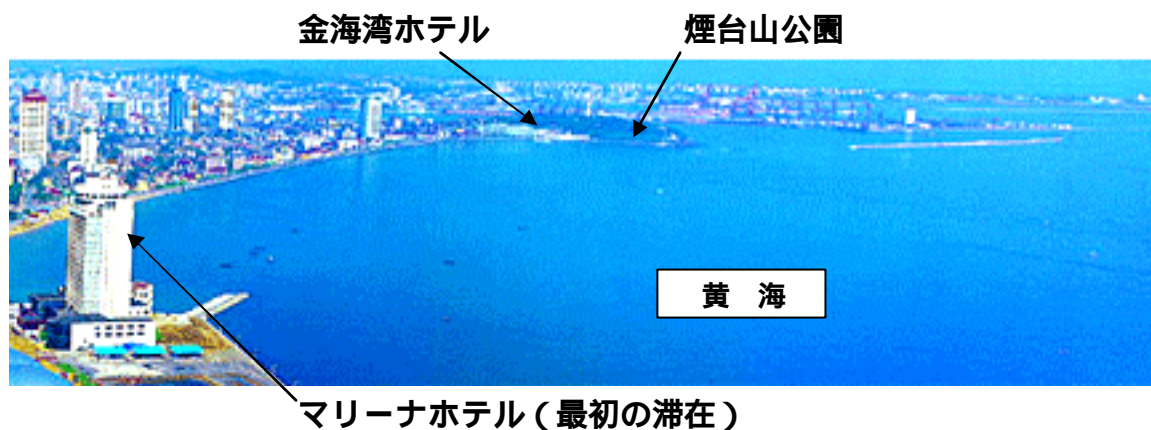
## 6 . 中国概観

あまり乗り気でなかった中国行であったが、20年ぶりに訪れた中国の変わり様には驚かされた。この20年、ミャンマーやフィリピンなど主に東南アジアに行っていたので、中国にはあまり目を向けていなかった。従って、様々な中国の変化に気付いていなかったのである。

前書きはここまでとし、それでは、1年半の煙台滞在で体験したことを紹介する。  
なお、20年前は1元が100円だったが、今回は15円である。

## 6 - 1 . 煙台の町

煙台市は人口約 60 万人。外国人向けの観光地ではないが、黄海に面しているため、海岸線の景色や、海水浴を楽しむ中国人が多数訪れる。韓国から飛行機で 1 時間と近く、多くの韓国系企業が進出しているが、日系の企業は少ない。



夏は日本と同じで結構暑いが、湿度は低く、カラッとしている。

冬の寒さは厳しく (-3 度 C くらい) 積雪は少ない (数 cm)

雨は年間 700mm で東京の半分。毎週日曜にゴルフをやったが、雨に降られたのは 2 ~ 3 回だった。

ホテル、デパート、飲食店、カラオケ店など生活に必要な設備は整っており、繁華街の大通りでは 1 年中夜店が開き、日用品などを安く手に入れることができる。町並みは整然としており、夜店通りを除けば、上海のように人が溢れて歩けないといった状況ではない。町中では中国製のタクシーが走っており、移動には便利で、しかも安い。初乗り 2 km が 5 元、10 km ぐらい乗っても 25 元である。天気の良い日の海岸通には出店やマッサージ師のベッドがずらりと並び、街のあちこちで太極拳を楽しむ人々を見かける。

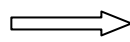


煙台駅周辺

## 6 - 2 . ホテル



マリーナホテル



金海湾ホテル

当初は A 社手配の比較的新しいマリーナホテルに投宿した。25 階建ての高層ホテルで最上階は回転レストラン、ここからの景色は最高である。16 階のルームキーをくれたが、火災などの避難にはエレベータしかなく、脱出容易な下の部屋をリクエストした。しかし、3 , 4 階は満室だったため、5 階に移動した。最悪の場合は、海に飛び込む覚悟だ。ここに 1 週間滞在したが、安全第一を考え、街中に近く、職場にも近い金海湾ホテルに移ることにした。

金海湾ホテルは海沿いにあり、高層ではないが部屋からの景色が素晴らしい。東向きの部屋で、日本列島の方から金海湾に昇る朝日は感動的である。ベランダがあり、緊急時の脱出は容易だが、不審者侵入の恐れもあり要注意だ。中国製のドアロックだけでは安心できず、ドアノブと家具とをひもで結び、外から侵入できない工夫をした。

部屋代は会社持ち、長期滞在客は 4 0 0 元 / 泊 (朝飯つき)。衛星放送が受信でき、日本の B S も楽しめる。

朝食は洋式と中式のビュッフェスタイルで、毎朝、満足、満腹での出勤となる。ホテル内に韓国人が経営する日本料理店があり、夜は主にここ、「天正」を利用した。ウエイトレスは皆若く、着物姿で片言の日本語を話し、くつろげる雰囲気。鯖の塩焼き定食 2 2 元、鍋焼きうどん 2 5 元などメニューは豊富で値段もまあまあ。これまで行った海外の日本料理店の中で、「天正」がベスト。煙台ビール、青島ビールは味も良く、大瓶 5 元と安い。

しかし、さしみと日本酒は結構高いので、週一で我慢する。

『天正』の地階にカラオケがあり、日本、中国、英語の歌がそろっている。曲名は忘れたが、天正娘とデュエットした中国歌のメロディが浮かんでくる。

ホテル内にボーリング場もある。何回かやったが、飲んだあとのプレーで記憶に残るスコアはない。同僚のオーストラリア人の勧めで、ホテル内の健康浴場に行った。彼の話ではマッサージがよいとのことだったが、入浴だけに留めたため、詳細はレポートできない。

中国は変わった。2 0 年前とは大違いである。

### 6 - 3 . レストラン

中国料理店や韓国料理店など町中には多くのレストランがある。

日本料理店も数軒あり、回転寿司屋、ラーメン店もある。しかし、西洋料理店は少なく、ビーフステーキを食べたいときはホテルのレストランに行くしかない。



なまこ

海に近いので、いか、えび、かになど海産物は新鮮で豊富、なまこ料理が定番である。飲茶や北京ダックも安くてうまい。飲んで食って、50元も出せばお釣りがくる。餃子専門店では肉や野菜をベースにしたいろいろな種類の餃子がある。

オーストラリア人とよく行ったメキシコ料理、ホテル近くにあるブラジル料理、豚肉や海鮮のしゃぶしゃぶなどがお気に入りとなったが、中国人に誘われた四川料理の火鍋は非常に辛く、私の口には合わなかった。

夜店街や海岸通りには屋台が並び、たくさんの客で賑わっている。ケンタッキーフライドチキンやマクドナルドの看板も見かける。とにかく、食うに困ることはない。ミャンマーで経験した食あたりも、ここでは気にすることはない。



カンペー (乾杯) その1



カンペー その2

### 6 - 4 . 酒



青島ビールは有名である。その他、山東半島の主要都市にはそれぞれ地ビールがあり、当地には**煙台ビール**がある。とにかく安い。スーパーでは缶ビールが3元、レストランでも大瓶5元である。中国の酒で有名なのは老酒だが、これは一般的な名称である。いろいろな銘酒があり、紹興酒も老酒の1銘柄である。

プロジェクトメンバーの懇親会で中国人が好んで飲むのは煙台姑娘（クーニャ）という白酒（ばいちゅう）である。この酒は日本の焼酎に似てアルコール度数が高く、においがきつい。中国人に勧められても一杯だけのおつき合いとする。



山東半島の気候と風土がフランスのワイン産地、ブルゴニュー地方に似ていることから、煙台はぶどうの栽培が盛んである。中国ワインの名産地のひとつに挙げられており、**張裕ワイン**は有名である。風味が良く、中国の料理には合わないが、西洋料理には、やはりワインが美味しい。



## 6 - 5 . りんご

山東半島は果物が豊富で、ぶどう、西瓜、なし、“りんご”などがある。特に煙台は有名な“りんご”の産地である。丘陵の地形と気候が“りんご”の生育に適しているのである。郊外に行くとリンゴ畑が続いており、秋の収穫期には道路の両側は“りんご”で溢れ、満載のトラックが行き来している。まさに、りんご、りんご、りんごといった風景には驚かされる。

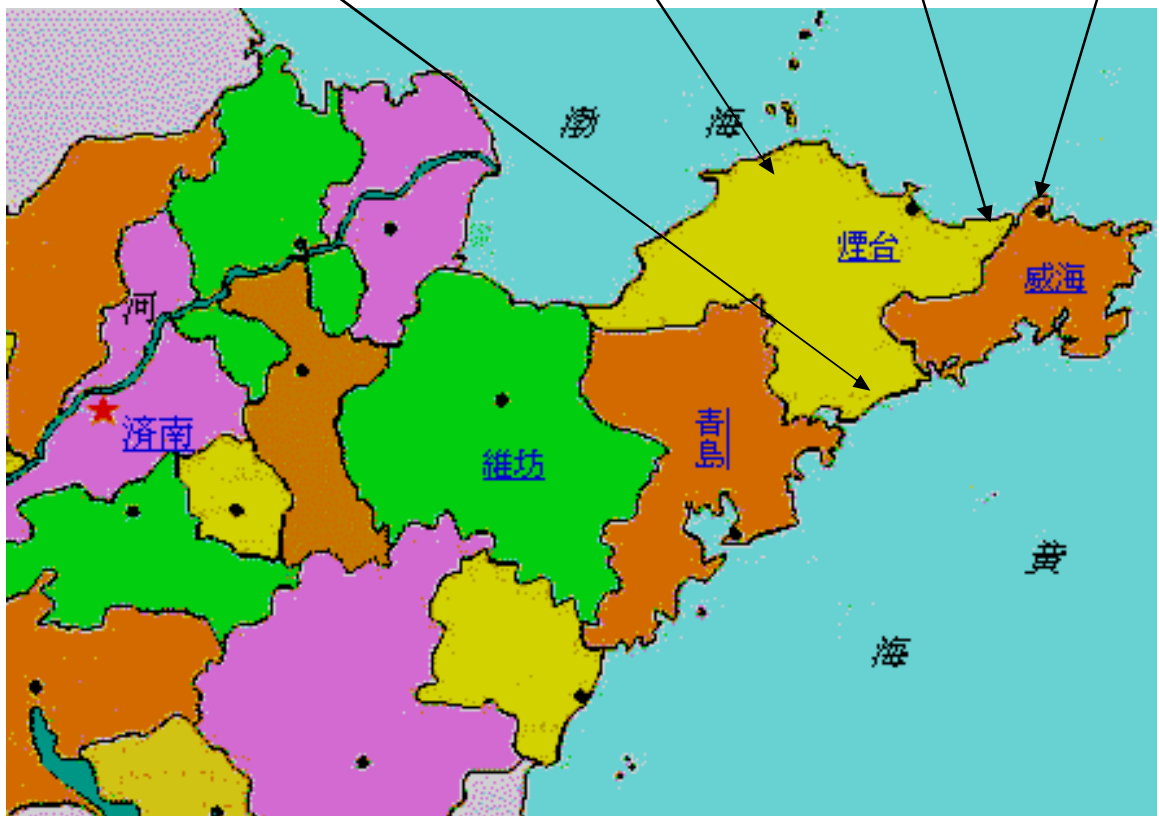
## 6 - 6 . ゴルフ

ラッキーだったのは中国でゴルフが出来ることだった。20年前には考えられないことである。ゴルフが出来るよとの一言でこのプロジェクトを引き受けたが、期待通りとなった。

日曜日はゴルフデーと決め、メンバーを集めてグリーン会談を楽しんだ。レギュラーメンバーは日本人、オーストラリア人、イギリス人、アメリカ人で、東京からの出張者など特別参加を加えると7~10人となり、マイクロバスをチャーターしてのツアーとなった。

それでは思い出のコースを順に説明しよう。

タイガービーチゴルフクラブ   南山ゴルフクラブ   山東ゴルフクラブ   威海コース



## 山東高留夫(ゴルフ)クラブ

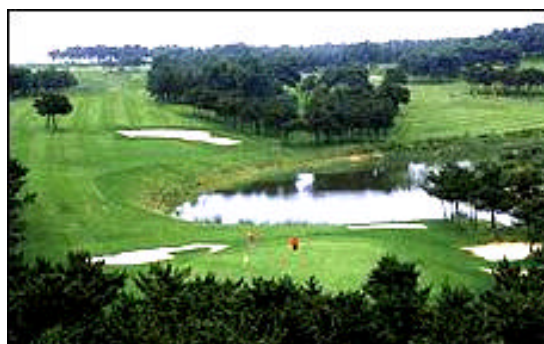
煙台市牟平区の海岸沿いにある林間コースで、金海湾ホテルから最も近い(車で50分)。各ホールはフラットであるが、両側は松林が密集しており、ここに打ち込むと前には打てず、少なくとも1打は損をする。無理をすると大叩きを招くことになる。18ホール、パー72、距離は6,500ヤードぐらい、ホームコースとして最も多くプレーしたゴルフ場である。私のベストスコアは88、ワーストは除夜の鐘。

プレー費は800元/ラウンドとパンフレットに書いてある。

毎週日曜に10人がプレーする条件で、中国人秘書を通し、ゴルフ場のマネジャーと値引き交渉をした。その結果、半額の400円でプレーすることができた。さらに、ホテルからゴルフ場への送迎マイクロバスも格安で提供してくれることとなった。

キャディは近郊農家の小姐たちである。プレーのアドバイスは期待できないが、ナイスショットのときは、“好打(ハオチョウ)”と可愛い声で励ましてくれる。プレー後、20元のチップを手にし、“謝謝”と応える笑顔が“好”である。

### オーストラリア人



18ホールを楽しんだあとは、いつも反省会を兼ねた大宴会で盛り上がる。日本チームVSインターナショナルチームで対戦し、負けた方が宴会代を負担する。戦績は勝ったり負けたり、ほぼ互角だった。行きの騒々しさと違って、帰りの車中は皆おとなしく、昼寝タイムとなる。次回のナイスショットを夢見ながら zzzzzzz

50ラウンドぐらい回ったが、雨に降られたのは1~2回だった。アイルランドの人とプレーしたときに、たまたま雨となり、雨男を英語で何というかと聞いた。“Rain Doctor”だと教えられた。

冬も欠かさずプレーした。池越えをトップし、普段なら池ポチャのショットが氷の上を転がってナイスオンしたり、パーパットが雪だるまになって半分しか転がらなかったり、いろいろ勉強した。

## 南山ゴルフクラブ

このゴルフ場は山東半島の北側、ほぼ中央に位置する龍口（ロンコウ）という街の近くにある。煙台から西に車で約2時間である。6300ヤード、パー72の丘陵コース。メンテナンスが良く、美しい景観が楽しめる。当地の財閥南山グループが開発したリゾートで、ゴルフ場のほか、ショッピングモール、飲食街、ディスコ、プールなどがあり、山の上にはパゴダや大仏殿もある。

宿泊設備も整っており、ここでのラウンドは土曜日から泊まりがけである。しかし、プレー前夜の宴会とディスコダンスやカラオケで、翌日はお疲れショットと

ノーカンパットの連続になることが多い。



各ホールに思い出はあるが、中でも170ヤード、打下ろしのショートホールが記憶に残る。グリーンは大きな池の中央に浮かんでいる。

5番アイアンでのティショ

ットにプレッシャーを感じ、2回に1回は“チャポン”という音としぶきを残し、ボールは池の中へと消えていく。冬、この池は凍結し、グリーンを外した無数のボールがまるで氷上の花のように咲いている。

高校時代の友人3人が煙台へやってきた。中西靖くん（7組、柔道部、現東神塗工社長）、池田篤司くん（8組、柔道部、現 UIC 社長）、大槻丈彦くん（8組、雀道部？ 現けやき社長）である。チャーターしたVIP用リムジンで、3社長を空港に迎え、この極楽コースへ案内した。ゴルフ場のマーケティングマネジャーの計らいで、カラオケ付き特別ルームでの中国料理に舌鼓を打ちながらの歓談は良い思い出となった。

中西君 池田君 マネジャー 筆者 大槻君



煙台絶唱（絶叫？）



ゴルフのスコアは別として、社長さんたちも南山のフルコースを満喫してくれたことと思う。



「人の振り見て、我が振り直せ！」(本人の名誉のため、名は伏せました)

### タイガービーチゴルフクラブ

煙台は山東半島の北側に位置するが、このゴルフ場は黄海に面した南側にある。青島(チンタオ)の方に向かって、車で2時間半、海陽(ハイヨン)という町の郊外にある。海沿いのフラットなコースだが、山東ゴルフクラブのようにゴルフアークの松林はない。スコットランド風リンクスの面影を残すホールが続く。ラフに入れると、ヒースのような雑草がショットの邪魔をするし、風が強いところもセントアンドリュースによく似ている。6500ヤード、パー72。



印象に残るのは次の3点である。

1. A社社長杯コンペが本コースで行われ、グロス88で優勝。(HCのおかげ)
2. レストランは西洋スタイルで、肉料理に二重丸。まうい!
3. コース管理とキャディの躰が行き届き、チップは受け取らない。

### 威海ゴルフクラブ

煙台から東の方向に、車で約1時間半、威海(ウェイハイ)という町はずれの海岸沿いにある。ここは黄海の玄関口に位置し、軍艦の出入りを監視する要塞がある。海岸は断崖状になっており、トリッキーなホールが続く。ハワイのワイアラエや富士サンケイクラシックが開催される川奈のイメージである。

レギュラーメンバーのオーストラリア人、アメリカ人、イギリス人、私の4人で試打ラウンドを行った。狭くてトリッキーなコースのため、スコアはまとまらず、私は102、飛ばしにこだわる外人部隊は皆、私以上の大叩きだった。



スライサーのオーストラリア人は1ダースあまりのボールが海に消え、憤懣やるかたなしといった状態で、怒りをぶちまけていた。“**Never come again.**”の捨てぜりふを残して、ゴルフ場をあとにした。リベンジをとの声は誰からもなく、ここでのプレーは1回だけに終わった。

## 6 - 7 フィッシング

“しりとり”ではないが、りんご、ゴルフの次はフィッシングである。

今回もゴルフバッグに釣り竿とギヤを忍ばせ、煙台にやってきた。ホテルの前は海である。視察を兼ねて海岸をぶらつく。

海岸は太公望と見物人で賑わっている。砂浜が続く海岸ではキス、ハゼといった小物が数多く釣れている。釣れると見物客がワッと集まる光景はいつもの中国だ。ホテル裏は煙台山公園となっており、磯場が続く。ここではカマスのような、鯖のような大物が釣れている。

海沿いの路上では餌売りのおばさん達が釣り竿を担いだ客にしきりに声をかける。餌は袋いそめ、黒鯛の好餌だ。日本では1パック1000円もするが、ここでは5円で手に入る。

春夏秋冬、1年を通して釣り糸を垂らしてみた。夏から秋にかけて釣果があった。この時期は小さな黒鯛が良く釣れ、魚影の濃さに驚かされた。大物の姿を見ることはなかったが、20～25cmの海津が竿をしぼり込み、結構楽しませてくれた。獲物は“天正”で塩焼きにしてもらい、酒の肴として同僚達に振る舞った。



## 6 - 8 うなぎ虫 (Eel Worm)

中国政府はアメリカ、カナダ、日本から輸入する木枠梱包について薫蒸処理の上、証明書の添付を義務づけている。日本が“しいたけ”など農産品の輸入制限をしたため、貿易摩擦が生じ、それに対する報復措置だと聞いたことがある。

今回のプロジェクトではA社が造船所に支給する品物が多くあり、その受け入れを煙台事務所が行った。書類の確認、通関、港からの輸送など造船所と連絡を密に行うが、書類の不備や輸送中に起こった事故の保険処理など繁雑を極めた。

ある日、煙台検疫所から「木枠梱包に“うなぎ虫”が見つかった、輸入は許可できない、日本へ送り返せ」との連絡が来た。

初めて聞く“Eel Worm”問題について、東京に連絡し、解決策を仰いだら、何とかしろとのこと。梱包の中身は配管用の弁類である。日本に送り返していたら、工事がストップする。何とかするしかない。

薫蒸機関の証明書もあるので、虫など見つかるはずがない。これは何かの間違いではないか、それとも検疫所職員が賄賂か何かを期待しているのか？

ご馳走作戦で解決できないか造船所の担当と策を練ったが、検疫所の職員は最近配置換えになったばかりで話がつかないという。

しからば、正面から談判するしかないと検疫所を訪問した。

薫蒸証明書を見せ、処理済みなので虫がいるはずはないと強く主張。

相手は我々を検査室に案内し、この顕微鏡を覗いて見ろという。うなぎ虫とは毛虫かミミズの様なものと思っていた。しかし、顕微鏡には精虫のようなものがたくさん蠢いている様子が写っていた。

幹部らしき部長クラスのおばさんを相手に談判を再会した。「梱包を日本に送り返すと時間も金もかかり、進行中のプロジェクトがストップする。梱包材を焼却処分願えないか、必要な費用は当方が負担する」と提案するが、答えは「ノー」。虫が見つかった梱包は送り返すのが規則であるとの1点張りで談判は決裂した。“しいたけ”の恨みが“バルブ”に及び、日本に送り返すことになってしまった。

## 6 - 9 頭髪

長期の滞在では散髪をどこでするかということが一つの関心事である。

日本の散髪料金はどうみても高すぎる。私は60歳以上なら2300円の安い理髪店を利用しているが、それでも散髪は外国の方が断然やすい。ミャンマーでは造船所に理容師（おじいさん）がいて、カットだけだが1回10円であった。

フィリピンではサロン風の綺麗な店を利用した。カット、ひげそり、洗髪のフルコースが100円である。煙台のホテルは25元（375円）だが、町中の

理髪店は6元(90円)と安く、常連になった。材料費がいらず、ほとんど人件費だけの商売だから安い料金を提供できるのである。

プロジェクトメンバーに65歳の日本人がいた。M社のときから旧知であり、「天正」で毎夜酒席を供にした。日本ではゲートボールのリーダーをしており、地域の大会で活躍しているという。ゲートボールのことを年寄り臭いとからかうと、ゴルフよりメンタルで技術を要するスポーツであるとまじめに反論する。英語も中国語も話せない彼が、煙台大学の日本語学科の女学生と交流を図り、休日には朝早くから出かける姿をよく見かけた。彼の頭は白髪である。真っ白といってよい。

ある日、彼らしい人物が「天正」で酒を飲んでいて、頭が黒いのを除けば、まさしく彼であり、こちらを見て笑っている。どうしたのかと聞くと、染髪したという。頭だけ若返り、はつらつとした彼の様子に皆大笑いである。女子学生の影響があったのかどうかはわからない。何日か経ったとき、彼の頭に異変が生じた。頭がかぶれ、脱毛が激しいという。7月の暑いときであり、現場でヘルメットを着用していたため、通気不足でムレムレになったのかなあという。帰国休暇が間近だったので、早めに帰国して日本の医者に見てもらった方がよいとの助言に、彼は早々帰国した。

一ヶ月後、煙台へ戻った彼の頭は元の白髪に変わっていた。医者の診断によると、頭の異変は染料が原因だったとのことである。

## 6 - 1 0 腰痛

突然、腰痛に見舞われた。歩くのが困難で、特に階段を下りるときは手すりが頼りとなった。中国人スタッフに付き添って貰い、煙台山病院へ行った。ホテルの近くにある立派な病院で、中にはいると人、人、人で溢れている。長い時間待たされるのを覚悟したが、間もなく診察台に横たわる。日本語がわかる女医に症状を訴える。さすが医術の国である。塗り薬と貼り薬のおかげで、次の日曜日にはゴルフ場にいた。“**謝謝！謝謝！**” 海外で病院に行ったのは、これが最初で最後である。

## 6 - 1 1 花粉症

春が近づくと、あの嫌な杉花粉症に悩まされる。私の花粉症歴は千葉に来てから始まった。神戸の山でメジロを追った日もあったが、千葉の杉林に打ち込んだボールを探すため、うろうろしたことが発症の原因と思う。東南アジアでは杉の木を見かけない。中国にも杉林はない。おかげで花粉症に悩むことはなく、快適な春を迎えることが出来る。花粉症シーズンには、いろいろな薬を見かけるが、最も効果的なのは日本を脱出することである

## 6 - 1 2 煙台の春夏秋冬

煙台の春は3月、河原の柳の芽吹きで始まる。

4月になると菜の花の黄色、桃とあんずのピンクが美しい。さくらは少ない。禿げ山が多く大木が少ないので、迫力には欠けるが、5月は新緑の季節である。ゴルフ場の芝生が緑の絨毯になり、麦の収穫を終えた畑は、とうもろこしや南京豆の緑が風にゆれる。6月、梅雨はないようだ。

7月になるとかなり暑く、8月の浜辺は海水浴客で賑わう。

9月にはススキが穂を出す。空が澄んでいるせいか満月が大きく見える。紅葉が始まる。しかし、紅葉樹が少ないので、日本のような紅葉は楽しめない。秋は収穫期。たわわに実った真っ赤なリンゴ、リンゴ、リンゴ。

10月には上海蟹がメニューに加わる。

11月になると木枯らしが吹き初め、寒くなる。海鮮しゃぶしゃぶに通う回数が増えてくる。12月は氷が張る寒さだ。それでも、夜店街は賑わっている。クリスマスパーティに招かれ、歌やゲームに興じる。大晦日には町のあちらこちらで花火が上がり、カウントダウンで新年を迎える。

1月の寒さは厳しい。雪は少ないが、道が凍るので注意が必要だ。

中国の正月は2月、5日ほどの連休となる。皆、おみやげを抱え、故郷へ帰る。正月が終わると春の訪れは近い。

## 6 - 1 3 中国語

1年半の煙台滞在で覚えた中国語はわずかであるが、中国人とのコミュニケーションに欠かせない。今、覚えているのは次の数語である。

- \* 尔好 (ニ - ハオ)                      こんにちは
- \* 謝謝 (シェシェ)                      ありがとう
- \* 有、没有 (ヨウ、メイヨウ) ある、ない。(没有問題...私の好きな言葉)
- \* 要、不要 (ヤオ、プヤオ)            いる、いない。
- \* 是、不是 (シ、プシ)                である、ではない。
- \* 会、不会 (ホイ、プホイ)            できる、できない。
- \* 明白、不明白 (ミンバイ、プミンバイ) わかる、わからない。
- \* 不可知 (プカチ)                      どういたしまして。
- \* 对不知 (トイプチ)                    失礼しました。
- \* 太貴了 (タイギーラ)                高い (買い物するとき)
- \* 請给我... (チンゲイウオ...) ...をください。
- \* 米飯 (ミファン)                      ご飯
- \* 美国 (メイグオ)                      米国



買い物やレストランでの支払いに数字は重要である。学生時代に覚えた麻雀が役に立つ。イ、アール、サン、ス、ウ、リュ、チ、パ...。  
ゴルフ場では中国娘のキャディがグリーンまでの距離を教えてくれる。イーバ  
イアールシサン(1百2十3)といえ、123ヤード。8番か9番アイアン  
でショットしよう。

## 7. おわりに

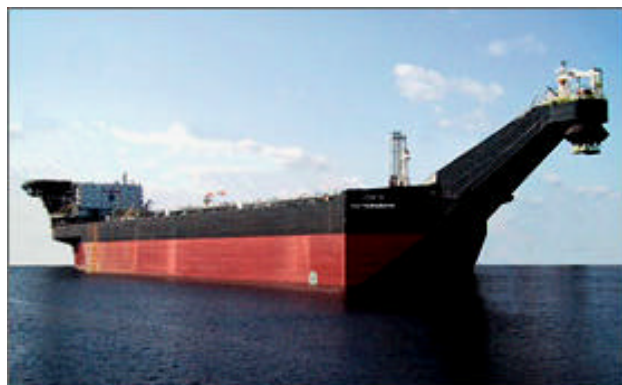
仕事の面でも、生活の面でも思い出の多い煙台だったが、もう一つ思い出がある。2002年11月、49陽会40周年記念同窓会への出席である。  
悪友の宇野秀輝君から「是非来いよ」との誘いを受けていた。FSOの完工間近で現場は忙しかったが、プロマネに特別休暇をもらい、神戸に来た。殆どが40年ぶりに会う人たちである。懐かしい人達との歓談は楽しく、藤原三ちゃん  
と行った三ノ宮も久しぶりだった。

煙台に戻ると、思わぬトラブルが待っていた。機械類の試運転もほぼ終わり、  
12月15日に出航の予定であった。しかし、12月のはじめに寒波が到来し、  
パイプの中の海水が氷結し、数個のバルブが破損した。このままでは、被害が  
増えるため、急遽出航を早めることになり、12月10日にFSOは出航した。

煙台での任務が終了し、11日に山東ゴルフクラブで打ち納め、12日は後片  
づけ、そして12月13日、思い出をバッグに詰め、煙台をあとにした。

今、FSOはシャム湾で順調に稼働している。

最後に、この体験記を辛抱強く読んでくれたあなたに、多謝(大変ありがとう)。  
もし、中国語に間違いがあったら、対不知(失礼しました)。  
それでは、再見、再見、再見.....



完成したFSO